

植物園のかたすみから 季節便り

ベトナムの黄花ツバキ

大阪市立大学理学部 植松千代美
附属植物園勤務

2月

植物園の椿山も開花期に合わせ、ようやく立ち入り禁止が解除になりました。当園のツバキは大半が日本に自生するヤブツバキ由来の園芸品種です。このコレクシオンをきっかけに、ベトナムのツバキの研究を始めて4年。この冬も年末年始はベトナムで調査でした。

これまでの調査地はジャングルの中の自生地でしたが、今回はハノイから車で1時間ほどのタムダオ国立公園周辺の民間ツバキ園と、国立公園内の保存園を訪ねました。20年ほど前には山中に黄花ツバキが多数自生していたのに、花色の珍しさが災いして、初めは花が、次は挿し木にする枝が、そして最後には植物体がまるごと売買され



民間ツバキ園で保全されている様々な黄花ツバキ

るようになり、自生地が失われたとのこと。いまや保全すべき個体は民間ツバキ園にしか残っており、それらを調査してきたのです。

ところで中国で見つかった黄花ツバキの金花茶は日本にも導入され、黄花品種の育成が試みられていますが、いまだ濃い黄色の花は実現していません。ベトナムでは濃淡様々な黄花に加え、赤、白、ピンク、オレンジ系の赤、紫など、野生種の花色は多様です。どのようなかニズムでかくも多様化したのか、興味は尽きません。基礎研究に着手する前に自生地が無くなり、種が絶滅に瀕することだけは避けたく、ベトナムの共同研究者とともに、保全の方法を模索している所です。